



事前課題

引用と出版倫理

0

引用と出版倫理について、ご説明します。

スライド部分を中心に読み進めてください。

ノート部分には、補足事項を記載しています。あわせて目を通してください。

引用について



■ 引用とは

他人の著作物から言葉や文章などを借用すること

■ 著作権法における引用

- 公表された著作物
- 公正な慣行¹⁾ に合致するもの
- 原文をそのまま引用（要約は可能）
- 研究その他の目的のためになされ、正当な範囲内²⁾ であること

1) 公正な慣行: 自分の論を展開するため、あるいは他人の考え方を批判する場合など

2) 正当な範囲: 数ページにわたる引用や、借用部分が論文の中心を占めるような引用は不可

1

他人の著作物を「引用」して利用することは、著作権法第32条により認められています。

著作権法 第32条

公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

「… 報道、批評、**研究** その他 …」とあるので、レポートや論文においても「引用」することができます。

引用について



■ 引用の要件

① 主従関係

自分の文章が「主」で、引用した文章が「従」となるようにする

② 出所明示

誰が書いた文章か、どこに載っている文章かを明示する

③ 明瞭区別性

どこからどこまでが引用部分か、はっきりと分かるようにする

2

こうした規定等から導き出される「引用の要件」として、

1. 主従関係、2. 出所明示、3. 明瞭区別性

が挙げられます。

実際に引用するには、これらの要件を満たす必要があります。

引用について



■ なぜ引用するのか

- **独創性**を主張する
- **信頼性**を保証する
- **説得力**を高める
- 先人の研究に対する**敬意**
- 読者への**情報提供**

3

論文やレポートなどの学術的文章は、過去の研究成果をふまえて自身の論を展開するものです。

学術的文章で引用することにより、過去の成果に対して新たな知見を加えたことを示すことができます。また、信頼性を保証し、説得力を高めることもできます。

さらに、参考文献を示すことは、先人の研究成果への敬意を示すことになります。また、読者が参考文献をたどって、情報を確認することができるようになります。

引用について



■ 引用の仕方

- 括弧で括るなど、自分の文章と他人の文章を区別する
- 利用した文献の出典を明示する

■ 直接引用と間接引用

引用には大別して**直接引用**と**間接引用**の2つの方法があります

- **直接引用**: 参照した文章をそのまま書き写し、「 」などの引用符で括る
- **間接引用**: 参照した文章を要約して、自分の文章に取り入れる

4

自然科学分野の論文では、「直接引用」はあまり用いられることはなく、通常「間接引用」が用いられます。

引用について



■ 直接引用の例 〈短い文章を引用〉

リンパ浮腫とは、国際リンパ浮腫学会では「リンパの輸送障害により、リンパ運搬能力が低下して間質内の血漿由来のタンパクや細胞が運搬できず貯留すること」と定義される¹⁾。

一字一句変えずに
そのまま書き写す

「」内が、
原文を書き写
した部分

番号等で引用元
を明示

* 参考文献の記述方法に
ついては後ほど詳しく

井沢知子, 荒尾晴恵. がん治療後のリンパ浮腫をもつ患者における複合的治療のアドヒアランスの概念分析. 日本看護科学会誌. 2018, 38, p. 169-175. をもとに作成

5

直接引用では、短い引用の場合と長い引用の場合で、記述の仕方が異なります。
まずは、短い引用の例です。

引用について



■ 直接引用の例 〈長い文章を引用〉

- 参照する文章が複数行にわたる場合は、段を下げて、上下を1行あけて引用する

小川は教育福祉の意義について以下のように述べている¹⁾。

2, 3字
下げる

今日の社会福祉とりわけ児童福祉サービスのなかに、実態的にはきわめて曖昧なままに放置され、結果的には軽視され剥奪されている子ども・青年さらに成人の学習権保障の体系化をめざす概念である。

上下1行
あける

小川はこの意義になぜ至ったのだろうか。

引用箇所は
「 」で括ら
ない

一字一句変え
ずにそのまま
書き写す

田中佑典. 教育福祉論に関する先行研究の整理と検討. 人間社会学研究集録. 2019, 14, p. 75-97. をもとに作成

6

続いて、長い引用の例です。

引用について



■ 直接引用の注意点

● 中略

引用文の一部を省略する場合、省略部分に**(中略)**、**—中略—**、**(略)**などと表記する

* 原文の意図を曲げないように省略すること

● 原文ママ

原文に誤字があるとき、その箇所**にママ**とルビをふるか、その直後に**(ママ)**と表記し、原文通りであることを示す

* 例) 「進化の課程^{ママ}で作られた...」

● 二重かぎかっこ

「 」を含む文章を引用符「 」に入れる場合、原文の「 」を『 』に変えて引用する

7

直接引用では、一字一句変えずに、そのまま写して引用しなければなりません。そのため、原文に誤字があるなど、不具合が生じることがあります。そのような場合の工夫をいくつか挙げています。

引用について



■ 間接引用の例

間接引用の場合も引用元を明示

参照した文献の一部を要約している

福重・森田（2013）は、看護学生のレジリエンスと自尊感情並びに自己効力感の相関の高さから、自尊感情や自己効力感がレジリエンスの影響要因である可能性と、それらを高めることがレジリエンスの発動につながる可能性を推察している。

直接引用ではないので、「」等は使わない

原文の意図を曲げないように注意して書く

根木香代子, 片山はるみ. 女性中堅看護師のレジリエンスに対する自尊感情と自己効力感の影響. 日本看護科学会誌. 2018, 38, p. 89-96. をもとに作成

8

次に、間接引用の例です。

間接引用では、他の人が書いた文献の内容を自分の言葉で要約して引用しますが、この場合も、

- ・原文の意図を曲げない
- ・出典を示す
- ・自分の意見と区別し、主従関係を失わない

ことが重要です。

引用について



■ 参考文献の記述方法

本文中で参考文献を明示する方法は、大きくふたつの種類に分けられる

● **バンクーバー方式**（引用順方式）

本文での引用箇所引用順に参考文献の連番を振り、参考文献欄に連番順に参考文献を記述

● **ハーバード方式**（著者名・発行年方式）

本文での引用箇所に著者名と発行年を記述し、参考文献欄は著者名・発行年順に参考文献を記述

9

通常、参考文献リストは論文の末尾につけます。

本文の引用箇所では、番号を振るなどして引用を示します。

そして、この番号順などで巻末のリストに参考文献を並べます。

こうすることで、本文の引用箇所と巻末の参考文献リストがリンクされます。

このリンクのさせ方には、「バンクーバー方式」と「ハーバード方式」の2種類があります。

引用について



■ バンクーバー方式

那須明美, 松本啓子. がんリハビリテーションにおける看護師とセラピストとの協働に関する思い: セラピストの思いに着目して. 日本看護科学会誌. 2018, 38, p. 64-71. をもとに作成

(本文)

… チーム医療においてIPWを阻害する要因は多く^①, 「いかに連携すべきか」は, 依然として大きな課題である^②. …

(文献リスト)

引用順

- ① 中島美津子, 孫大輔, 川村和美, 内海美保. IPWにおける薬剤師-看護師連携のあり方: 看護師の立場から. 薬学雑誌. 2015, 135(1), p. 117-121.
- ② 大塚真理子. “IPW/IPEの理念とその姿”. IPWを学ぶ: 利用者中心の保健医療福祉連携. 埼玉県立大学編. 東京, 中央法規出版, 2009, p. 12-27.

10

まずは、バンクーバー方式の記述例です。

バンクーバー方式では、番号でリンクしています。

引用について



■ ハーバード方式

(本文)

… チーム医療においてIPWを阻害する要因は多く (中島ら, 2015), 「いかに連携すべきか」は, 依然として大きな課題である (大塚, 2009) . …

(文献リスト)

アルファベット順・五十音順

大塚真理子. (2009). IPW/IPEの理念とその姿. 埼玉県立大学(編), IPWを学ぶ: 利用者中心の保健医療福祉連携 (pp. 12-27). 東京: 中央法規出版.

中島美津子, 孫大輔, 川村和美, 内海美保. (2015). IPWにおける薬剤師-看護師連携のあり方: 看護師の立場から. 薬学雑誌, 135(1), 117-121.

11

次に、ハーバード方式の記述例です。

ハーバード方式では、著者名・発行年でリンクしています。

引用について



■ 参考文献のスタイル

代表的な参考文献の記述スタイルには、次のようなものがある

- **APAスタイル**（米国心理学会）社会科学分野
- **NLMスタイル**（米国国立医学図書館）生物医学分野
- **AMAスタイル**（米国医師会）生物医学分野
- **ACSスタイル**（米国化学会）化学分野
- **IEEEスタイル**（電気電子学会）工学分野
- **MLAスタイル**（米国現代言語協会）人文科学分野
- **SIST 02スタイル**（科学技術振興機構）自然科学分野（おもに日本語を対象）

看護学の領域でも
多く利用されている

参考文献の記述方法は、指導教員の指示や
学術雑誌の投稿規程等にしてください

12

参考文献の記述の仕方には、学術分野によってさまざまなスタイルがあります。

引用について



■ 参考文献の記述例 ①

APAスタイル

図書

著者名. (出版年). 章の見出し. In 編者名 (Ed(s).),
書名: 副書名 (版表示., ページ). 出版地: 出版者.

Gray, J. R. (2017). Ethics in Research. In J. R. Gray, S. K. Grove, & S. Sutherland (Eds.), *Burns and Grove's the practice of nursing research: Appraisal, synthesis, and generation of evidence* (8th ed., pp. 157-191). St. Louis, MO: Elsevier.

雑誌

著者名. (出版年). 論文名. 誌名, 巻数(号数), ページ.

Atay, N., Sahin, G., & Buzlu, S. (2021). The Relationship Between Psychological Resilience and Professional Quality of Life in Nurses. *Journal of psychosocial nursing and mental health services*, 59(6), 31–36. <https://doi.org/10.3928/02793695-20210218-01>

13

では、参考文献の記述例を見てみましょう。

まずは、看護学の分野でもよく採用されるAPAスタイルです。

図書と雑誌では記述する項目が異なるため、それぞれの例を示しています。

引用について



■ 参考文献の記述例 ②

SIST 02スタイル

図書

著者名. “章の見出し”. 書名: 副書名. 編者名. 版表示, 出版地, 出版者, 出版年, ページ.

グレッグ美鈴. “質的記述的研究”. よくわかる質的研究の進め方・まとめ方: 看護研究のエキスパートをめざして. グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山美江編. 第2版, 東京, 医歯薬出版, 2016, p. 64-84.

雑誌

著者名. 論文名. 誌名. 出版年, 巻数(号数), ページ.

小木曾加奈子. 地域包括ケア病棟に勤務する看護職の職務継続意向と仕事に対するストレス. 日本看護福祉学会誌. 2021, 26(2), p. 145-152.

附属図書館が提供している**EndNote basic**を使うと、それぞれのスタイルに対応した文献リストを作成することができます！

14

続いて、SIST 02(シスト ゼロニ)スタイルの記述例です。SIST 02は、おもに自然科学分野で日本語論文を対象に用いられるスタイルです。

こちらにも図書と雑誌に分けて例示します。

図書の例をご覧ください。タイトルと思われる記述が2つあります。

- ・「質的記述的研究」
 - ・「よくわかる質的研究の進め方・まとめ方: 看護研究のエキスパートをめざして」
- 「よくわかる質的研究の進め方・まとめ方...」が図書のタイトル、「質的記述的研究」が章のタイトルです。実際に引用しているのは、「質的記述的研究」の部分からということになります。

次に、図書と雑誌を見比べてください。図書のみ [出版地, 出版者] が記述されています。参考文献リストを見たとき、[出版地, 出版者] の情報があれば、それは図書の参考文献ということになります(出版地については、省略されることもあります)。図書・雑誌を見分けることができれば、参考文献リストからスムーズに文献を探すことができます。

。

引用について



■ ちょっと演習

**実際の文献の例をつかって
演習問題を解いてみましょう**

15

ここから演習問題を解いてみてください。

引用について



■ 演習問題 1

①～③ の参考文献の資料種別を、次のA～Dから1つ選んでください

資料種別

A. 図書 B. 雑誌論文 C. 新聞記事 D. ウェブページ

引用について



■ 演習問題 1_①

参考文献 ①

小林真理子, 松島英介. (2007). リエゾンと緩和 母親のがんと子どもの情緒的・行動的問題との関連要因. 精神科, 11(5), 395-398.

※ APAスタイルで記述しています

資料種別

A. 図書 **B. 雑誌論文** **C. 新聞記事** **D. ウェブページ**

引用について



■ 演習問題 1_②

参考文献 ②

小塩真司, 西口利文 (編). (2007). 心理学基礎演習:
Vol. 2. 質問紙調査の手順 (p. 101). 京都: ナカニ
シヤ出版.

※ APAスタイルで記述しています

資料種別

A. 図書 B. 雑誌論文 C. 新聞記事 D. ウェブページ

引用について



■ 演習問題 1_③

参考文献 ③

Cancer Research UK. (2020). Cancer incidence by age, all cancers combined incidence trends over time by age. Retrieved June 14, 2021, from <https://www.cancerresearchuk.org/health-professional/cancer-statistics/incidence/age>

※ APAスタイルで記述しています

資料種別

A. 図書 B. 雑誌論文 C. 新聞記事 D. ウェブページ

引用について



■ 演習問題 2

次の参考文献リストから、図書のタイトルをあげてください

大西淳子. (2017). 養護教諭のまなざし: メルロ=ポンティの身体論を手がかりに. 西村ユミ, 榊原哲也 (編), ケアの実践とは何か: 現象学からの質的研究アプローチ (pp. 147-158). 京都: ナカニシヤ出版.

※ APAスタイルで記述しています

20

ヒント

スライド13の参考文献の記述例①を参照してください。

APAスタイルの図書の記述は、

著者名. (出版年). 章の見出し. 編者名 (Ed(s).), 書名: 副書名 (版表示., ページ). 出版地: 出版者.

となります。

引用について



■ 演習問題 3

次の書籍の奥付から、参考文献リストの空欄を埋めてください

臨床老年医学入門

—すべてのヘルスケア・プロフェッショナルのために

発行 2005年11月15日 第1版第1刷
 2012年 5月15日 第1版第4刷
 2013年11月15日 第2版第1刷 ©
 2015年11月 1日 第2版第2刷

監修 日野原重明
 著者 道場信孝
 発行者 株式会社 医学書院

← 奥付

ヒント

空欄には**出版年**が入ります

参考文献リスト



道場信孝. 臨床老年医学入門: すべてのヘルスケア・プロフェッショナルのために. 第2版, 東京, 医学書院, _____, 278p.

※ SIST 02スタイルで記述しています

21

引用について



■ 演習問題 4

次の【本文】の引用箇所は、下記のどの参考文献によるものでしょうか。
①～③から選んでください。

【本文】

…得点が低いほど望ましい状態に近いことを表わす(舟島ら, 2006)。

【参考文献】

- ① 亀岡智美, 舟島なをみ, 山下暢子. (2006). 看護学教員の教育ニーズの現状とそれに関する特性の解明. 日本看護研究学会雑誌, 29(5), 27-38.
- ② 舟島なをみ, 村上みち子, 亀岡智美, 三浦弘恵, 山下暢子. (2006). 教育ニーズアセスメントツール: 看護学教員用(FENAT)の開発. 看護教育, 47(4), 350-355.
- ③ 舟島なをみ. (2006). 魅力ある院内教育の実現: 「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」を活用して. 看護展望, 31(5), 530-535.

22

演習問題は、以上です。

演習問題の解答は、2日目の講義内にお伝えする予定です。

引用について



■ 孫引きについて



- 他人が引用した文献を、原典にあたることなく引用することを**孫引き**という
- 孫引きはできる限り避ける
- 原典が入手困難な場合などは、引用元を明記したうえで引用する

間違って引用されたり、著者の意図が曲げられているかもしれないので

(例)

「著者Aの文献について、著者Bが述べるところによれば…」

原典の著者と引用者の関係が区別できるようにする

引用について



■ その他引用に関する注意事項

● 会議録について

会議録は質的な信頼性に問題があるものも含まれており、**参考文献にあげるべきではない**とされている

● 私信や未公刊資料の扱い

参考文献リストに入れず、**本文中に記載**するか、**脚注**とするほうが一般的。私信の場合は、相手の許可が必要

● 投稿中の論文について

査読を経て掲載が決まっている論文は、参考文献リストにあげてもかまわない。通常「印刷中」と付記しておく
正式に受理されていない論文は、参考文献には用いず、本文中に記載するか、脚注で示す

24

引用や参考文献の記述方法は、指導教員の指示や学術雑誌の投稿規程等に
がってください。

引用について



■ ひょうせつ 剽窃・盗用について

- 剽窃・盗用とは、他人のアイデアや出版物を自分自身のもののように公表すること
- 剽窃・盗用を避けるには…
 - 出典を示す
 - 原文を書き写した場合は「 」などの引用符で括る
 - 要約した場合にも出典を示す
 - 地の文に対して引用部分が多くなっていないか確認する

引用について



■ 参考文献

- 吉田健正. 大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方. 第2版, 京都, ナカニシヤ出版, 2004, 151p.
- 佐渡島紗織, 坂本麻裕子, 大野真澄編著. レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド: 大学生・大学院生のための自己点検法29. 東京, 大修館書店, 2015, 146p.
- 藤田節子. レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方. 東京, 日外アソシエーツ, 2009, 144p.
- 大木秀一. 文献レビューのきほん: 看護研究・看護実践の質を高める. 東京, 医歯薬出版, 2013, 110p.
- 山崎茂明, 六本木淑恵. 看護研究のための文献検索ガイド. 第4版増補版, 東京, 日本看護協会出版会, 2010, 210p.
- 前田樹海, 江藤裕之. APAに学ぶ看護系論文執筆のルール. 東京, 医学書院, 2013, 107p.

26

このスライドを作成するために、参考にした文献の一覧です。
ちなみに、SIST 02スタイルで記述しています。

引用について



■ 参考文献

- 科学技術振興機構. “参考文献の役割と書き方: 科学技術情報流通技術基準(SIST)の活用”. 科学技術情報プラットフォーム.
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12003258/jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf (参照 2022-07-06).
- 筑波大学附属図書館. “引用文献・参考文献をきちんと書こう: 引用文献って何? どうやって書けばいいの?”. 知って得する情報: Prism. 2018-09-27.
https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/Prism_no.97.pdf (参照 2022-07-06).
- 立教大学図書館. “5. 引用・著作権”. レポート作成ガイド. 2016-04-01. <http://library.rikkyo.ac.jp/learning/reportguide/citation/> (参照 2022-07-06).

27

ウェブサイトからも引用することができます。

出版倫理



■ 出版倫理とは

学術出版のためのルール

- 科学論文をジャーナルに出版することは、一貫性のある科学的知見の発展にとって基本的要素
- 学術出版に関わる様々な立場において倫理基準に基づいて行動することが求められている

高石雅人 (2016) 「論文の書き方：執筆時の注意点と、文献の調査や管理の方法」 (滋賀医科大学 平成27年度第18回 人を対象とする医学系研究に関するセミナー 配付資料) 参照

次に、出版倫理について見ていきます。

出版倫理



■ 出版倫理に関する不正行為

- **研究捏造**（偽造/改ざん）
でっち上げや操作によってつくられたデータや結論をもとに発表を行うこと
- **剽窃**
他人の論文を許可なく利用すること
- **利益相反を明らかにしない**
- **オーサーシップを偽る**（ゴースト/ゲスト/ギフトオーサーシップ）
- **二重投稿、複数出版**
すでに公表されていることを開示することなく、同一の情報を投稿し、発表すること
- **サラム法**
1件の研究論文を複数の論文に分割すること

29

出版倫理に関する不正行為について見ておきます。

出版倫理



■ 研究活動における不正行為

研究不正防止

<https://www.shiga-med.ac.jp/research-and-collaboration/fraud-prevention/prevention-of-research-misconduct>

関係資料・規程

> 滋賀医科大学における研究活動の不正行為への対応に関する規程

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(3) 「不正行為」とは、…次に掲げる行為をいう。

- イ 研究活動によって得られたデータその他研究成果の**捏造**、**改ざん**又は**盗用**
- ロ 論文の**二重投稿**、**不適切なオーサーシップ**等の研究活動における不適切な行為であって、研究者倫理に著しく反するもの
- ハ 前二号に掲げる行為の証拠隠滅又は立証妨害

30

研究活動における不正行為についても見ておきます。

「滋賀医科大学における研究活動の不正行為への対応に関する規程」にも、先ほどの出版倫理に関する不正行為(スライド29)で挙げられていた「捏造」「改ざん」「オーサーシップ」などの言葉が定義のなかに見られます。

本学で研究活動に携わる皆さんは、一度目を通しておかれることをおすすめします。

出版倫理



■ 撤回論文

おもな撤回の理由

- 捏造
- 改ざん
- 盗用（剽窃）

⚠ 盗用（剽窃）

→ 不注意で
「盗用」する
危険性あり！

- オープンアクセス誌掲載の生物医学文献のうち、撤回された621件についての調査結果

撤回理由（件数）

- ミス(148)
- 盗用(142)
- 重複出版(101)
- 不正/不正の疑い(98)
(=データ偽装/改ざん)
- 査読過程の捏造(93)
- オーサーシップの争議(67)
- 不明(18)
- その他(13)

Wang, T., et al., Retracted Publications in the Biomedical Literature from Open Access Journals. Sci Eng Ethics, 2018.

31

次に撤回論文について見ていきます。

論文が撤回されるおもな理由として、「捏造」「改ざん」「盗用（剽窃）」が挙げられます。特に「盗用（剽窃）」は、前半で説明したように適切に引用を行わないと、盗用とみなされることがあり、注意が必要です。

スライド右側には、ある論文に掲載された、撤回論文についての調査結果を示しています。「ミス」を除くと、「盗用」や「重複出版」などが上位を占めています。

出版倫理



■ 撤回論文

電子ジャーナル本文

Retracted article

See the [retraction notice](#)

Retracted article

→ 撤回論文

Retraction notice

→ 撤回公告

> Lancet. 2020 May 22;395(10240):1820-6. doi: 10.1016/S0140-6736(20)31180-6. Online ahead of print.

Hydroxychloroquine or chloroquine with or without a macrolide for treatment of COVID-19: a multinational registry analysis

Affiliations + expand
 PMID: 32450107 PMCID: PMC7255293 DOI: 10.1016/S0140-6736(20)31180-6
[Free PMC article](#)

Erratum in

Department of Error.

[No authors listed]

Lancet. 2020 May 30;S0140-6736(20)31249-6. doi: 10.1016/S0140-6736(20)31249-6. Online ahead of print.

PMID: 32485145 [Free PMC article](#). No abstract available.

Retraction in

Retraction-Hydroxychloroquine or chloroquine with or without a macrolide for treatment of COVID-19: a multinational registry analysis

Mehra MR, Ruschitzka F, Patel AN.

Lancet. 2020 Jun 13;395(10240):1820. doi: 10.1016/S0140-6736(20)31324-6. Epub 2020 Jun 5.

PMID: 32511943 [Free PMC article](#). No abstract available.

PubMed 詳細表示画面

Hydroxychloroquine or chloroquine with or without a macrolide for treatment of COVID-19: a multinational registry analysis

Summary

Background Hydroxychloroquine or chloroquine, often in combination with a second-generation macrolide, are widely used for treatment of COVID-19, despite no conclusive evidence of their benefit. Although generally not used for approved indications such as autoimmune disease or malaria, the safety and benefit of these treatment regimens are poorly evaluated in COVID-19.

Methods We did a multinational registry analysis of the use of hydroxychloroquine or chloroquine with or without a macrolide for treatment of COVID-19. The registry comprised data from 671 hospitals in 20 countries. We included patients hospitalised between Dec 28, 2019, and April 14, 2020, with a positive laboratory test for SARS-CoV-2. Patients who received one of the treatments of interest within 48 h of diagnosis were included in four treatment groups (chloroquine alone, chloroquine with a macrolide, hydroxychloroquine alone, or hydroxychloroquine with a macrolide), and patients who received none of these treatments formed the control group. Patients for whom one of the treatments of interest was initiated more than 48 h after diagnosis or if they were on mechanical ventilation, as well as patients who received remdesivir, were excluded. The main outcomes were in-hospital mortality and the occurrence of de-novo ventricular arrhythmias (as defined by prolonged QT interval, ventricular tachycardia or ventricular fibrillation).

Findings 94 832 patients (mean age 53·8 years, 46·3% women) with COVID-19 were hospitalised during the study period and met the inclusion criteria. Of these, 3713 received chloroquine with or without a macrolide, 3063 received hydroxychloroquine with or without a macrolide, and 54 656 were in the control group. 91·1% of patients had cardiovascular disease and its risk factors, race or ethnicity, and baseline disease severity), when compared with mortality in the control group (OR 49%, hazard ratio 1·33; 95% CI 1·25–1·42), hydroxychloroquine with a macrolide (OR 42%, hazard ratio 1·30; 95% CI 1·22–1·39), chloroquine with a macrolide (OR 42%, hazard ratio 1·30; 95% CI 1·22–1·39), hydroxychloroquine with a macrolide (OR 42%, hazard ratio 1·30; 95% CI 1·22–1·39), and chloroquine with a macrolide (OR 42%, hazard ratio 1·30; 95% CI 1·22–1·39). There was no independent association between treatment and risk of de-novo ventricular arrhythmias during hospitalisation.

Interpretation There is no evidence of a benefit of hydroxychloroquine or chloroquine, when used alone or with a macrolide, as compared with mortality in the control group. Each of these drug regimens was associated with decreased in-hospital mortality and increased frequency of ventricular arrhythmias when used for treatment of COVID-19.

Funding Wellcome Distinguished Chair in Advanced Cardiovascular Medicine at Brigham and Women's Hospital.

Copyright © 2020 Elsevier Ltd. All rights reserved.

Introduction

The absence of an effective treatment against severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2) infection has led clinicians to select drugs that are known to be effective for other medical conditions in the treatment of COVID-19. Key among these repurposed therapeutic agents are the antimalarial drug chloroquine and its analogue hydroxychloroquine, which is used for the treatment of autoimmune diseases, such as systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis.¹ These drugs have been shown in laboratory conditions to have antiviral properties as well as immunomodulatory effects.^{2–4} However, the use of this class of drugs for COVID-19 is based on a small number of anecdotal experiences that have shown variable responses in uncontrolled observational analyses, and small, open-label, randomised trials that have largely been inconclusive.^{5–7} The combination of hydroxychloroquine with a second-generation macrolide, such as azithromycin (or clarithromycin), has also been advocated,

www.thelancet.com | Published online May 22, 2020 | [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)31180-6](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)31180-6)

32

PubMed で、“retracted publication [pt]” と検索すると、撤回論文がヒットします。詳細画面を開くと、画面上部に“Retracted article”という赤色のバナーが表示されます。バナーには、“Retraction notice (撤回公告)”へのリンクもあります。

このようにPubMedなどの文献データベースでは、論文が撤回されたあとでも、撤回論文であることが示されたうえでデータが残ります。

また電子ジャーナルでも、“RETRACTED”などの文字が入った状態で残り続けます。

出版倫理



■ 撤回論文

医中誌Webでは、論題の先頭に【撤回論文】と記載され、Abstractに撤回情報がいつ告知されたか明記される（2005年発行誌以降）

【撤回論文】 クリアブラックジンジャー含有食品の摂取が健康な成人男性のエネルギー代謝に及ぼす影響 ランダム化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー比較試験

薬理と治療(0386-3603)49巻2号 Page241-250(2021.02)

論文種類：原著論文/ランダム化比較試験

シソーラス用語：プラセボ, 安静, 運動負荷試験, *エネルギー代謝, 酸化-還元, 酸素消費, 脂質代謝, 植物抽出物(治療的利用), 二重盲検法, クロスオーバー研究, ランダム化比較試験, *栄養補助食品(治療的利用), 座位, 糖代謝, *ショウガ科(治療的利用)

医中誌フリーキーワード：バンコン風(治療的利用)

チェックタグ：ヒ **撤回論文**

【撤回論文】—当論文については「薬理と治療」49巻4号(2021年4月発行)の664ページに論文撤回のお知らせが掲載された—(以下抄録)食品用のブラックジンジャー抽出物(クリアブラックジンジャー)を開発し、クリアブラックジンジャーを摂取した場合のエネルギー消費量への影響を調べた。当該試験はランダム化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー比較試験とし、ボランティア登録された20歳以上35歳以下の男性被験者を被験食品先行群(Group A, 11名)とプラセボ食品先行群(Group B, 12名)の2群にランダムに割り付けて実施した。その結果、クリアブラックジンジャー含有食品摂取により、運動負荷時のエネルギー消費量がプラセボ食品摂取と比較して有意に高値を示した。さらに、運動負荷時の酸素消費量および脂質酸化量がクリアブラックジンジャー含有食品摂取によりプラセボ食品摂取と比較して有意に高値を示し、呼吸商はクリアブラックジンジャー含有食品摂取によりプラセボ食品摂取と比較して有意に低値を示した。

33

医中誌Web での撤回論文の事例です。

出版倫理



■ ハゲタカジャーナルに注意

● オープンアクセスジャーナル (OAジャーナル)

著者が論文加工料 (APC) を支払うことで、誰でも無料で読めるように公開される電子ジャーナル

● ハゲタカジャーナルとは？

こうしたOA誌の仕組みを悪用し、高額なAPCを支払わせ、適切な査読なしに論文を掲載する、悪質な出版社によるジャーナル

出版倫理



■ ハゲタカジャーナルに注意

● ジャーナルの信頼性を確認する

□ Beall's List <https://beallslist.net/>

コロラド大学のジェフリー・ビール氏が作成したハゲタカ出版社の一覧。2017年閉鎖されたが、現在は匿名の管理者により更新されている

□ Directory of Open Access Journals (DOAJ) <https://doaj.org/> 質の高いOA査読誌を採録

□ Journal Citation Reports (JCR) <https://jcr.clarivate.com/> [学内] Clavivate Analytics社が提供する、インパクトファクターを調べるためのツール * 次回詳しく説明します

□ Think. Check. Submit. (日本語版) <http://thinkchecksubmit.org/translations/japanese/> 著者が論文を投稿する際のチェックリスト

35

ハゲタカジャーナルは年々手口が巧妙化しており、こうしたリストやツールも完全に信用することはできません。過去の掲載論文を読んだり、他の研究者にジャーナルの評判を聞いたりして、ご自身で判断できるように、普段から情報収集を行ってください。